

モビリティDXプラットフォームのイベント開催報告及び今後のイベントについて

プラットフォーム会員交流イベント(第3回報告)

2/7に新東京ビル8F Deloitte Tohmatsu Innovation Parkにて、第3回モビリティDXプラットフォーム会員交流イベントが開催され、現地98人、オンライン208人と多くの方々にご参加いただきました。

今回のイベントでは、「SDVのグローバルな取組・議論の潮流」をテーマに、国内外の自動車OEMやサプライヤ、コンサルティングファーム等のSDVに向けて積極的に取り組まれている企業からの登壇者によるプレゼンを通じ、様々な知見が共有されました。

その後行われた登壇者によるトークセッションでは、開発促進に向けた今後のグローバル連携のあり方について、現地やオンラインによる一般参加者からの質問も交え、グローバル企業や最先端技術を扱う企業ならではの様々な観点を交えた議論が行われました。

イベント後には同会場にて懇親会が行われ、登壇者と一般参加者が軽食とドリンクを片手に交流を行い、業界や企業の異なる方々が積極的にコミュニケーションされていた姿が印象的でした。

本イベントでは初となる登壇者の海外からのオンライン参加や日英同時通訳により、ロケーションや言語の壁を越えたイベントとなりました。



会場の様子



トークセッションの様子

●登壇者・プレゼンタイトル一覧

・AI-Defined Vehicle時代における最新潮流と日本が取るべき構え



周 磊

デロイトトーマツ コンサルティング合同会社
執行役員 パートナー Business Model Innovation Unit
Leader

・Tesla FSD (Supervised) の日本市場への導入に向けて



Ivan Komusanac

テスラ
Head of EU Policy

・SDV時代とヨーロッパの標準化動向



クリスチャン・メッカー

ボッシュ株式会社
代表取締役社長、ボッシュ モビリティ 東アジア・東南アジア
プレジデント 兼 最高技術責任者

・DRIVING THE DIGITAL FUTURE OF AUTOMOTIVE



松井 俊也

クアルコムシーディーエムエーテクノロジーズ
オートモーティブ統括本部長

・日本のSDV開発の現状と将来に向けた取組



伊藤 建

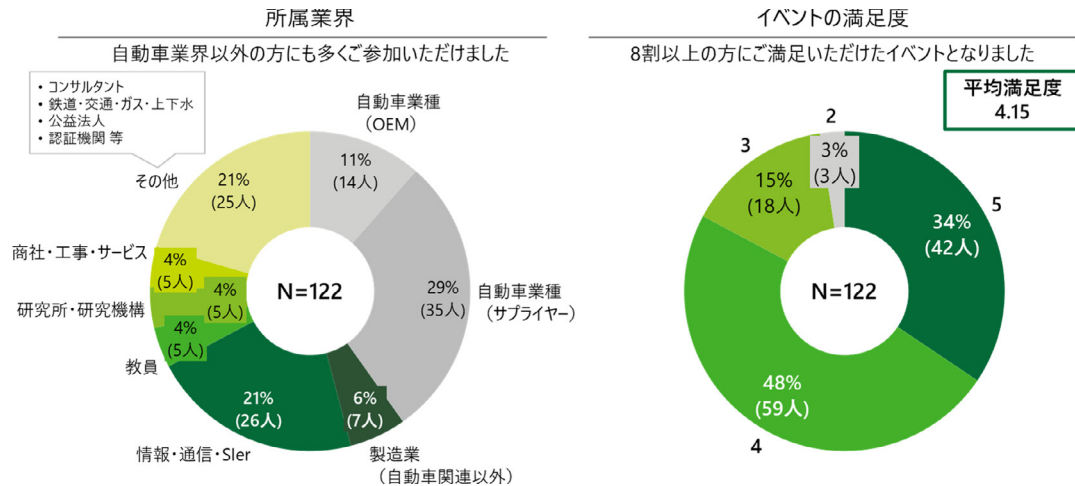
経済産業省
製造産業局 自動車課 モビリティDX室長

イベント後の参加者アンケートでは、「定期的に開催してほしい」、「話しやすい環境だった」といった率直なご意見から、現地参加者ならではのネットワーキングを深められたことに対するご意見をいただきました。また、SDVにかかる知見が深まったというご意見や、海外動向、最先端のモビリティ

DX動向を知ることができたというご意見等をいただき、ご参加者から高い満足度が得られたイベントとなりました。

本イベントの今後の開催については、決定次第アナウンスを行う予定です。

● アンケート結果



● 参加者の声

会場環境に関するご意見

■ 率直な意見

- ・定期的に開催してほしい
- ・登壇者に質問が出来た
- ・話がしやすい環境だった
- ・登壇者のクオリティと会の進行が適切だった

■ オンサイトでのネットワーキング構築に関するご意見

- ・異業種や分野の違う方たちと会話が出来た
- ・SDVに関係する人々とのご挨拶や人脈を作ることが出来た
- ・現地参加でのネットワーキングの機会は貴重なものであり、3回目と続いていることが参加者の満足度高いことを背景としていることが理解できた

プレゼン・トークセッションに関するご意見

■ SDVに関する知見が深まったというご意見

- ・SDVの知識が深まった
- ・業界をリードしている方々のSDVに対する考え方やアプローチについて知ることができた
- ・SDVの開発において日本では水平分業にならざるを得ないと考える。垂直統合とは戦略が異なるがいずれにしても困難な面が多いことを再認識した

■ 新たな気づきを得られたというご意見

- ・新しい動向や海外の動向について知ることができた
- ・トークセッションの時間で真摯にご回答いただいております、とても参考になった
- ・各事例に加え、政策立案者の説明がわかりやすかった
- ・従来の産業プラットフォームの延長ではなく、全く新しいプラットフォームで産業全体を捉え直している事がよくわかった
- ・最先端のモビリティDXの動向について把握することができた
- ・民間事業者の取り組みなど、実態も踏まえた課題等の理解が深まった

自動運転UX創造チャレンジ 開催報告

● イベント内容

2月15日(土)に日比谷国際ビルにて、第1回自動運転UX創造チャレンジの本選を開催しました。

「自動運転UX創造チャレンジ」は、モビリティDXプラットフォームのソフトウェア人材獲得・育成に向けた新たな取組として、自動運転のユーザーエクスペリエンス(UX)をテーマに開催する「アイデアソン」です。

2024年12月より「自動運転の車内で提供できるサービスのアイデアと、それを実現するHMI(人と車の間にあるインターフェース)」をテーマに募集し、全国から40チーム82名の応募が寄せられました。

一次審査を通過した12チームがブラッシュアップ期間を経て2月15日の本選に出場しました。審査員には、自動車ジャーナリストの川端由美様、Mobility Dock株式会社CEOの中尾様、株式会社ティアフォーのソフトウェアエンジニアである牛島様など各分野でご活躍されている方をお迎えしました。厳正な審査を行った結果、最優秀賞、優秀賞、奨励賞の3チームが表彰されました。

最優秀賞を受賞したチームは、岩国プログラミングクラブでした。岩国プログラミングクラブは高校生を含む3人チームで構成されており、「マイクラ×ワクワクAI人力車で巡る未来の錦帯橋観光」をテーマに発表いただきました。

表彰式の後には懇親会を開催し、発表者同士だけでなく審査員も交えて大いに盛り上がりました。後日HPに当日の動画をアップロード予定ですので、是非ご覧ください。

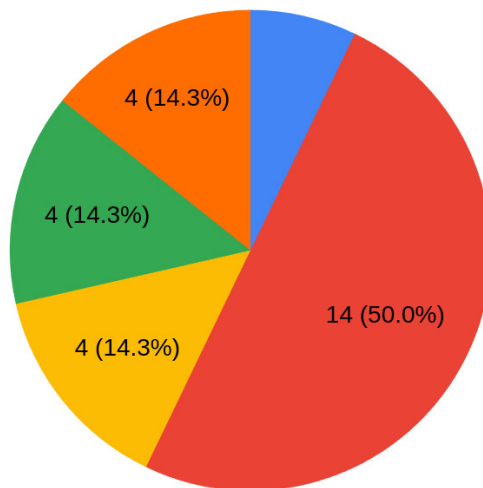
詳細はこちら

<https://www.mobilitydx.go.jp/event/event08.html>

● アンケート結果

参加者の年齢 (29件の回答)

● 20歳未満 ● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代以上



● 参加者の声

- ・デザイナーとしての参加だったので、エンジニアの方々との交流が新しい発見があり、とても良かった
- ・いろいろなチームが様々なアイデアを発表するのを聞くのが楽しかった
- ・参加のハードルの低さ、多様な参加者と交流できたのが良かった
- ・とても楽しく取り組むことができた。アイデアソンを通して、モビリティについて学ぶ機会になり、有意義な時間だった

最優秀賞

岩国プログラミングクラブ



マイクラ×ワクワクAI人力車で巡る
未来の錦帯橋観光



優秀賞

GEEK EGG

発表
テーマ

時空超越車 (タイムトラベルカー)



奨励賞

FeelEng-Lab

発表
テーマ

理解できる！！自動運転提供サービス



その他、今回発表されたアイデア一覧は以下の通りです。

チーム名	タイトル
iASL-Gifu.core	飲食店と消費者を直接つなぐ デリバリーシェフ
TEAM A	自動運転タクシーを活用した 復興タクシー
TEAM T.K	パーソナルな旅のための AI自動運転サービス
TPAC	Family Link Car 遠く離れた家族と五感でつながる 未来の車両
Ume & Ko	AI旅ススめ
次元シフト工房	お店がお家にやってくる — 外商ショッピングカ —
ダイバーシティ 自助会	無医地区を自動運転EVで解決！
富士ソフト	モビリティ×ダイナミックプライシング ×ビッグデータ トライアル福袋プラットフォーム

未来の移動体験を生み出すソフトウェアエンジニアのしごと図鑑2025

2025年2月28日(金) 19:00~20:30

未来の移動体験を生み出す ソフトウェアエンジニアの しごと図鑑 2025



● イベント内容

モビリティ業界未経験から活躍するためのスキル
& キャリアパスとは？

● 概要

ただ走るクルマを作るだけが

モビリティ業界じゃない。

人々の新しい移動体験を生み出すためには、
ソフトウェアエンジニアのセンスとスキルが
求められています！

IT業界とモビリティ業界の交差点に立つこのイベントでは、若手エンジニアには業界への第一歩を、シニアエンジニアにはリスキリングやキャリアチェンジのヒントを余すことなくご提供します！

IT業界出身者がどんなスキルを活かせるのか？
業界特有の課題ややりがいとは何か？ ...etc

ソフトウェア技術者として次のステップを模索するすべての方に向けた、オンライン・オフラインのハイブリッドイベントです。

普段はクルマづくりの裏方に徹するソフトウェアエンジニアたちの生の声を通じて、モビリティ業界の魅力と可能性を探ってみませんか？

開催日時：2025 / 2 / 28 (金) 19:00 ~ 20:30

開催方法：現地参加 もしくは オンライン配信

開催場所：TIME SHARING 新宿 4 A

アクセス：〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町

1-1-15 東信同和ビル 4 階

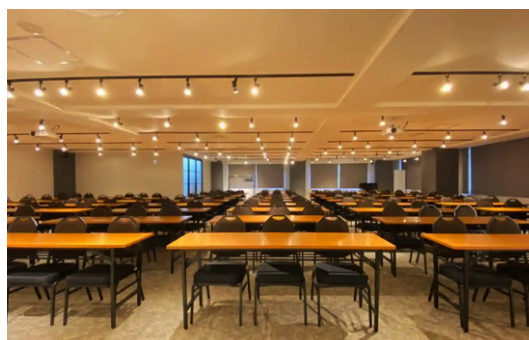
東京メトロ丸ノ内線 新宿三丁目駅 E2 出口より徒歩 3 分

JR各線 新宿駅 東口より徒歩 6 分

西武新宿線 西武新宿駅 北口より徒歩 6 分

東京メトロ副都心線 東新宿駅 A1 出口より徒歩 8 分

● 会場イメージ



● タイムスケジュール

Time	Agenda	Title・Contents	Speakers
19:00 (5min)		開会	
19:05 (10min)	基調 プレゼン	モビリティDX プラットフォーム について	経済産業省 自動車課モビリティDX室長 伊藤 建
19:15 (55min)	トーク セッション	SDV開発に求められる スキルについて	名古屋大学 高田 広章 本田技研工業株式会社 波多野 邦道 トヨタ自動車株式会社 村田 賢一 日産自動車株式会社 村松 寿郎 (モデレーター:ティアフォー 加藤 真平)
20:10 (15min)	質疑応答		
20:25 (5min)		閉会	

● 登壇者



伊藤 建

経済産業省

自動車課 モビリティDX室長

2005年経済産業省入省。これまで、質の高いインフラ輸出戦略の推進、世界貿易機関(WTO)ルール交渉、カーボンニュートラルに向けた環境エネルギー政策、医療DXの推進等を担当。人事院留学(米国)、通商政策局アジア大洋州課、貿易経済協力局戦略輸出室、大臣官房広報室大臣政務官秘書官、産業技術環境局地球環境連携室/対策室、通商政策局通商機構部、厚生労働省大臣官房総務課を経て2023年7月より現職。



高田 広章

名古屋大学
モビリティ社会研究所 所長・教授

1988年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。同大学助手、豊橋技術科学大学助教授等を経て、2003年より名古屋大学教授。リアルタイムOS、リアルタイム性保証技術、車載組込みシステム/ネットワーク技術、組込みシステムのディペンダビリティ、ダイナミックマップ等の研究に従事。

オープンソースのリアルタイムOS等を開発するTOPPERSプロジェクトを主宰。

日本学会会議員、自動車技術会理事、日本ソフトウェア科学会理事長、モビリティDX検討会座長などを務める。博士(理学)。



波多野 邦道

本田技研工業株式会社
SDV事業開発統括部
エグゼクティブチーフエンジニア

本田技研にて自動運転の社会実装に向けた活動をリード。自工会自動運転部会会長として国際基準調和、国際標準化に取り組む。自動運転普及に向けた官民連携の取り組みへも参画。自動運転AIチャレンジ実行委員会委員長。



村田 賢一

トヨタ自動車株式会社
デジタルソフト開発センターフェロー

慶應義塾大学大学院計算機科学専攻後期博士課程単位取得満了退学。家電業界にて情報家電やゲーム機等のシステムアーキテクトを歴任。2008年にトヨタ自動車に中途入社し、車載情報システムの先行開発を担当。その後、車載マルチメディア・ナビゲーション・テレマティクスシステムの開発主査やコネクティッド戦略策定推進を担当。トヨタIT開発センター(現在はトヨタ自動車に吸収合併)のCTOなどを経て、2021年より現職。



村松 寿郎

日産自動車株式会社
電子技術・システム技術開発本部 電子アーキテクト開発部 主管
東北大学大学院電気及び通信工学専攻修了後、1991年日産自動車に入社。中央研究所(現 総合研究所)にて車載レーダー、車載マルチメディア・無線インタフェース、EVの価値創造、デジタルラジオでのサービス、コネクティッドカーの研究等に従事。その間に米国カリフォルニア州にて業務研修を1年、米国ミシガン州のNissan Technical Center North Americaに3年間の出向を経験。

2011年にコネクティッドカー&サービスのビジネスユニットにて企画・デザインを行い、先行検討チーム立ち上げのため米国シリコンバレーに2年8ヶ月駐在。2016年4月からコネクティッドカー&サービス開発部 主管に着任し、コネクティッドカー&自動運転事業本部を兼務、2017年4月からAD&ADAS開発部を兼務。2019年7月からコネクティッド技術開発&サービスオペレーション部 部長2023年4月からコネクティッドカーオフボード開発&オペレーション部 部長として、コネクティッドカー&サービスのクラウドシステム、Mobile APPの開発及びオペレーション、サイバーセキュリティ等に従事し現在に至る。

<モデレーター>



加藤 真平

株式会社ティアフォー 創業者 兼 代表取締役社長CEO
The Autoware Foundation 代表理事
東京大学大学院情報理工学系研究科 特任准教授

自動運転技術のためのオープンソースソフトウェアを進化させたパイオニア、コンピュータサイエンスの国際的な専門家。東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻特任准教授としても活動。2012年から2016年まで名古屋大学大学院情報科学研究科の准教授を務め、世界初の自動運転オープンソースソフトウェア「Autoware」を開発。また、慶應義塾大学、東京大学、カーネギーメロン大学、カリフォルニア大学にて博士研究員として勤務。

・トークセッション

業界で取組む「SDVスキル標準」について紹介するとともに、SDV開発の第一線で活躍するエンジニアが、モビリティ業界で働くやりがいやIT業界のエンジニアの方々が直面する課題や悩みについて下記のテーマ(例)で徹底討論します！

- ・IT業界出身者のどのようなスキルがモビリティ業界で活きるか？
- ・モビリティ業界におけるキャリアパスの展望 - そこに未来はあるか？
- ・いまさら聞けないモビリティ業界でのソフトウェアエンジニアの仕事と働き方
- ・エンジニアのリスキングって何したらいい？
- ・モビリティ業界ならではのソフトウェアエンジニアが取り組む課題とやりがい



高田 広章



波多野 邦道



村田 賢一



村松 寿郎



<モデレーター>
加藤 真平

●参加対象者

- ・自動車/MaaS領域に興味がある方
- ・モビリティ業界にこれから参画してみたいソフトウェアエンジニアの方
- ・情報系/工学系を専攻されている学生の方

●参加にあたっての注意事項

- ・参加を辞退する場合は、詳細ページより申込のキャンセルをお願い致します。
- ・配信映像や音声は各自の通信環境に依存します。なるべく通信環境の良い状態で視聴ください。

●参加方法

「未来の移動体験を生み出すソフトウェアエンジニアのしごと図鑑 2025」のお申し込みはこちらよりお申し込みください。

https://enquete.mobilitydx.go.jp/form/pub/events/work_encyclopedia



モビリティDXプラットフォーム スタートアップ 協業連携イベント

2025年3月5日(水) 15:30~19:30

モビリティ関連事業のスタートアップとの連携について
大企業4社がプレゼンテーションを行います

スタートアップ 協業連携イベント



概要

モビリティ業界では、産業構造の大きな変化が進んでいます。特に自動車産業を取り巻くデジタル技術の進展に伴い、SDV化や、自動運転/MaaSといった新たなモビリティサービス、企業の垣根を超えたデータ連携・利活用など、様々な観点でサプライチェーン/バリューチェーンの高度化が求められています。そして、それらを実現するためには、スタートアップの高い技術力や柔軟なビジネスアイデアの力が不可欠です。

本イベントでは、大企業4社より、モビリティ関連領域において具体的に関心のある事業領域や協業を進めたいスタートアップなどについて、プレゼンテーションいただきます。ネットワーキングの場を是非、新たな事業連携・ビジネスの推進にご活用ください。

開催日時：2025/3/5(水) 15:30~19:30

開催方法：現地参加

開催場所：みずほ丸の内タワー 2階「MIRAIS」

アクセス：〒100-8241 東京都千代田区丸の内1-3-3

JR東京駅丸の内北口より徒歩約5分
東西線大手町駅B1b出口(地上階)より徒歩約3分
都営地下鉄大手町駅D7・D4出口(地上階)より徒歩約5分

お申し込みはこちら

https://enquete.mobilitydx.go.jp/form/pub/events/startup_entry

会場イメージ



タイムスケジュール

Time	Agenda	Speakers
15:00~	受付開始	
15:30~	開会、オープニングスピーチ	
15:35~	トークセッション(調整中)	経済産業省 みずほ銀行
16:00~	大企業による プレゼンテーション①	本田技研工業 株式会社
	大企業による プレゼンテーション②	株式会社 デンソー
	大企業による プレゼンテーション③	中部電力 株式会社
	大企業による プレゼンテーション④	ソフトバンク 株式会社
17:40~	プレゼンテーション(調整中)	経済産業省
18:00~	ネットワーキング	
~19:30	閉会	

参加対象者

モビリティ領域に関心があり、事業連携を進めたい方。特に、EVソリューション、MaaS、物流DX、エンタメ、AI・センシング技術などに関するスタートアップ企業を想定

参加メリット

- モビリティ関連領域で事業を行う大企業によるプレゼンテーションを通じて、モビリティDXに関する協業アイデア・知見を深めることが可能
- ネットワーキングを通じて、大企業4社およびスタートアップとの交流が可能

参加費用

無料 ※交通費は自己負担

モビリティDXプラットフォーム海外団体との連携

インドのソフトウェア人材について

モビリティDXプラットフォームでは、海外団体との連携について検討を進めています。

IT大国としても知られるインドでは、インド国家技能開発公社がリードする「Skillup India 4.0」イニシアチブの枠組みで、300万人の学生やエンジニア育成を目的に自動運転、SDV、生成AIなどの技術教育プログラムが始まっています。

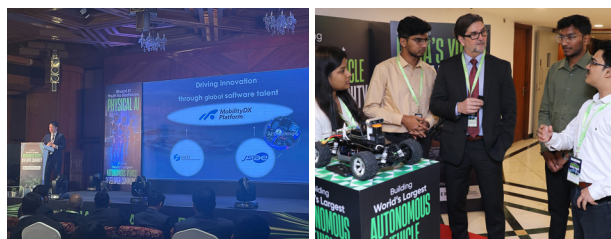
現地で意見交換をする中では、

- ・インド国内における自動運転技術実装は遠いものの、OEM各社でEV化が進み、次の技術領域としてAD/ADAS、SDV技術者の育成の模索も始まっている状況があること。
- ・インドの学生にとって海外留学・就職先候補は北米、欧州、中東、豪州等の英語圏且つ現地で

の必要性・コミュニティがある地域が優先的に選ばれ、日本は現状ハードルが高いこと。一方で日本は友好的且つ技術者にとって魅力的な産業が多く、魅力は高いこと。

等が分かりました。モビリティDXプラットフォームでは今後、このような海外の技術コミュニティとも連携し、モビリティ業界の発展に貢献していきます。

詳細はこちら <https://www.skillup-india.in/>



その他のイベント

小学生にもモビリティDXに親しむ機会を！ 科学技術体験イベント「キッズエンジニア」のご紹介

「キッズエンジニア」は、小学生を対象とした、自動車・モビリティ・その他幅広い分野の科学技術体験学習イベントです。自動車技術会主催で2008年から開催しており、2024年には「第3回クルマ・社会・パートナーシップ大賞」を受賞。例年、自動車関連企業を中心に、様々な企業が体験学習教室を実施しています。

近年では、「将来のモビリティDXを担うエンジニアが育つきっかけになれば」との思いから、プログラミングをテーマにした教室を実施する企業が増えていきます。ご興味のある企業様は見学も可能ですので、ぜひお気軽に右記WEBサイトからお問合せください。未来のソフトウェアエンジニア育成に、

ご理解・ご支援のほどよろしくお願いたします。

キッズエンジニア2025

開催日：2025年8月1日(金)・2日(土)
会場：Aichi Sky Expo (愛知県常滑市)
展示ホールC (10,000㎡)

来場者数：約4,000名(見込)

詳細はこちら

<https://www.jsae.or.jp/kidse/news/detail/2479/>

「第3回クルマ・社会・パートナーシップ大賞」受賞
<https://jsae.or.jp/press/detail/2279/>



親子でプログラミング「ちゃん」と動いた！



夏休みの児童と保護者が多数来場

モビリティDX戦略策定後の進捗

モビリティDX検討会

2024年12月より令和6年度モビリティDX検討会のワーキンググループ（SDV領域WG、モビリティサービス領域WG、データ利活用領域WG）を開始しており、現在、各領域において第2回のワーキンググループが終了したところです。今後、2024年5月に策定した「モビリティDX戦略」の更なる強化に向けて、検討を進めていきます。

「モビリティDX戦略」の更なる強化に向けた検討項目

- **テクノロジーのイノベーションにより引き起こされる新たな競争環境**
- **モビリティDX推進に向けた主要3領域の関係性と基本戦略**
- **具体的な戦略**
 - (1) 「SDV領域」
 - ・ 「多様なSDV」の具体化、供給面・需要面の深掘り
 - ・ SDVの各開発要素における日本の課題・打ち手の検討
 - (2) 「モビリティサービス領域」
 - ・ モビリティサービスの普及についての政策的意義の整理
 - ・ これまでの実証状況等を踏まえた今後の国内での社会実装、海外展開シナリオの検討
 - (3) 「データ利活用領域」
 - ・ 自動車業界におけるデータ連携・利活用による政策的意義の整理
 - ・ 国内ユースケースの拡張、海外ユースケースの展開
 - (4) 「横断領域」
 - ・ 初年度取組を踏まえた、今後の「モビリティDXプラットフォーム」の自律的・効果的な在り方の提示
 - ・ 自動車産業におけるソフトウェア人材確保・育成に向けた更なる検討（他業界を跨いだ検討、海外連携等）

詳細はこちら

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/automobile/jido_soko/index.html

※順次資料や議事要旨はアップロード予定です。

RoAD to the L4プロジェクト 令和6年度成果報告会

RoAD to the L4は、CASE、カーボンニュートラルといった自動車産業を取り巻く大きな動きを踏まえて、持続可能なモビリティ社会を目指すプロジェクトです。レベル4等の先進モビリティサービスを実現・普及することによって、環境負荷の低減、移動課題の解決、我が国の経済的価値の向上に貢献することが期待されています。

この度、令和6年度のRoAD to the L4プロジェクトの成果を一般向けに公表し、プロジェクトを周知するため、成果報告会を実施します。自動運転にご関心のある方は是非ご参加ください。

日時：2025年2月27日（木）14:00～17:00

形式：オンラインとのハイブリッド

会場：BASEQ（東京ミッドタウン日比谷内）
東京メトロ千代田線・日比谷線、都営地下鉄三田線「日比谷」駅直結
東京都千代田区有楽町一丁目1-2
東京ミッドタウン日比谷6F

お申込みフォーム

<https://questant.jp/q/road-to-the-l4-r6event>

開催概要

開会	開会挨拶
成果報告	[プロジェクトの全体像および進捗状況]
	テーマ2 取組成果と2025年度の予定【ひたちBRT（茨城県日立市）】 [公道交差を含む専用道区間等におけるレベル4自動運転サービスの実現に向けた取組]
	テーマ3 取組成果と2025年度の予定【新東名高速道路】 [高速道路における高性能トラックの実用化に向けた取組]
	テーマ4 取組成果と2025年度の予定【柏の葉（千葉県柏市）】 [混在空間でインフラ協調を活用したレベル4自動運転サービスの実現に向けた取組]
機連願成	パネルディスカッション（詳細調整中） テーマ：2025年の自動運転バスサービス社会実装（仮） 登壇者：L4プロジェクト テーマリーダー 車両開発事業者 交通事業者
	話 題： ・ 自動運転移動サービスの実現に向けた各社の取組 ・ 自動運転移動サービスの実現に向けた課題 ・ 2025年度に向けたRoAD to the L4事業の方向性
閉会	閉会挨拶

詳細はこちら

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/automobile/Automated-driving/l4pj_seikahoukokukai_r6.html

モビリティDXに関わる国内外動向について

- ソニー・ホンダモビリティ、MOTERと米国におけるAFEELA向けの自動車保険商品・サービス開発で提携

➔ <https://www.shm-afeela.com/ja/news/2025-01-27/>

- 時間の経過とともに改善：ボルボ・カーズのデジタル変革は、よりスマートで安全な車にどのようにつながるか

➔ <https://www.qualcomm.com/news/onq/2025/01/better-over-time-how-volvo-cars-digital-transformation-will-lead-to-smarter-safer-cars>

- 静岡県沼津市のスマートシティ実現に向けた交通DXと観光MaaSのサービス提供を開始

➔ https://www.ihl.co.jp/all_news/2024/industrial_general_machine/1201244_13680.html

- 交通平等デーに、ウェイモはロサンゼルスで公共交通クレジットプログラムを発表

➔ <https://waymo.com/blog/2025/02/la-public-transit-credit-program>

- Zenmov社、Emirates Driving Company (アブダビ) とスマートモビリティの中東展開に向けたMOUを締結

➔ <https://zenmov.com/news/zenmov社-emirates-driving-company-アブダビ-とスマートモビリティの中東展開に向けたmouを締結>

- サムスン電機、LiDARアプリケーション向け世界初のMLCCを発表

➔ <https://www.samsungsem.com/jp/newsroom/news/view.do?id=8903&page=1>

- 持続可能な食品物流の構築を目指して 自動運転トラックによる幹線輸送の公道実証実験を開始

➔ <https://www.f-line.tokyo.jp/press/2025/02/05/持続可能な食品物流の構築を目指して%e3%80%80自動運転/>

- Uber Japan、電脳交通とパートナーシップ締結 日本初の配車システムとの連携で、地方交通の維持と地域経済発展を推進

➔ https://www.uber.com/ja-JP/newsroom/uber_dnk_2025/

- 日本初、遠隔操作型小型車の複数地域・合計10台同時運行の道路使用許可を取得し実証実験を開始 ロボットサービスの更なる業務効率化に貢献

➔ <https://news.panasonic.com/jp/press/jn250206-2>

- 自動運転トラック輸送実現会議、第一回全体会合を開催

➔ <https://t2.auto/news/2025/0206.pdf>

- ForetellixとMathWorks、マツダの次世代AV開発を加速する革新的ツールチェーンで提携

➔ <https://www.foretellix.com/foretellix-mathworks-mazda-jp/>

- トヨタ自動車、車内体験を向上させる次世代ヒューマンマシンインターフェース (HMI) にUnityを採用

➔ <https://unity.com/news/unity-chosen-by-toyota-motor-corporation-for-next-generation-hmi>

- 大成ロテックと日野自動車、次世代道路技術の早期実装を目指した取り組みを開始

➔ <https://www.hino.co.jp/corp/news/2025/20250206-003863.html>

- WeRide、自律走行配送車の先駆者となるRobovan W5を発表

➔ <https://www.weride.ai/posts/610>

- あいおいニッセイ同和損保、GOとの連携で国内ライドシェア事業の実態・ニーズに対応する新たな保険商品をリリース

➔ <https://goinc.jp/news/pr/2025/02/07/4lvlbolvdixrkkph8v1v2h>

- 日本交通とティアフォー、高性能センサーを搭載したタクシー営業車両による走行データ収集を開始 自動運転AI開発用データセットを提供へ

➔ https://tier4.jp/media/detail/?sys_id=8YvxMbzqkxwORidM5j8ZL&category=NEWS

- Qorix と Qualcomm が協力してソフトウェア定義車両の未来を推進

➔ <https://www.qualcomm.com/news/releases/2025/02/qorix-and-qualcomm-cooperate-to-drive-the-future-of-software-def>

- ティアフォー、埼玉県深谷市で自動運転バス実証実験を開始 自動運転サービスの社会実装に向け、埼玉工業大学と連携強化

➔ https://tier4.jp/media/detail/?sys_id=1h100btXmoVvEM0vgAH8nL&category=NEWS

- スズキとソラコムが、「電動モビリティベースユニット」の事業化に向けてIoTを活用した実証実験を開始

➔ <https://www.suzuki.co.jp/release/d/2025/0212/>

- メイ・モビリティが初の無人商用配車サービスを開始

➔ <https://techcrunch.com/2025/02/12/may-mobility-launches-its-first-driverless-commercial-ride-hail-service/>

モビリティDX会員限定!ニュースレターへの記事掲載をご希望される方へ

本ニュースレターを活用してモビリティDXに関わる情報発信をしたい方は<問い合わせ先>まで氏名、ご所属をご連絡ください!

●掲載に関する詳細は以下の通りです。

- ・ご連絡いただいたタイミングで間に合う号への掲載となります
- ・掲載量は1件につき1/2ページ以内となります
- ・URL等外部サイトへのリンクの記載は可能です
- ・記事に関する問い合わせ先をご記載ください
- ・掲載情報は技術紹介や取り組み事例の紹介に限ります。個社の製品やサービスの宣伝はご遠慮ください。事務局が趣旨に合わない内容と判断した場合はお断りする場合がございます。